

令和5年度 第2回燕市学校給食運営委員会会議録（要旨）

日 時：令和6年1月17日（水）午後3時から4時10分まで

場 所：燕市役所 3階301会議室

出席委員：燕東小学校委員、燕北小学校委員、小中川小学校委員、粟生津小学校委員、
吉田北小学校委員、島上小学校委員、燕南小学校委員、小池小学校委員、
大関小学校委員、吉田小学校委員、分水北小学校委員、小池中学校委員、
燕北中学校委員、吉田中学校委員、
食物アレルギーに識見を有する者、学校薬剤師

欠席委員：分水中学校委員、分水小学校委員

委託業者：株式会社味彩燕、株式会社メフォス

栄養教諭：東部学校給食センター栄養教諭、西部学校給食センター栄養教諭

事務局：教育長、教育次長、主幹、学校教育課長、学校教育課課長補佐、学校給食係

1 開会挨拶 佐藤委員長

2 議事進行（進行 学校給食運営委員長）

（1）令和5年度 学校給食に関する取組報告

資料に基づき「キラッと新潟米☆地場もん献立給食」、「地産地消に関する取組」、「物価高騰等に係る対応」、「食物アレルギーに関する取組」、「食育動画」、「給食センターからの取組報告」について説明した。

（2）令和5年度 燕市学校給食喫食量調査及びアンケート調査について

資料に基づき燕市学校給食喫食量調査及びアンケート調査の目的、結果等について説明した。

（3）SDGs（持続可能な開発目標）に係る取組について

資料に基づき、「牛乳のストローレス化について」、「給食・食育だよりのペーパーレス化」の取組について説明した。

（4）令和6年度学校給食センター稼働日について

資料に基づき、令和6年度学校給食センター稼働日について説明した。

[委員の意見等]

■ 食物アレルギーをもつ児童生徒の保護者との情報交換会について (P.3)

委員 参加者が保護者1名だが、対象保護者の人数はどのくらいか。

事務局 現在学校給食で対応している保護者が対象で、東部と西部を合わせておよそ150人程度である。

委員 保護者は意見交換する場は大切に思っていると思う。今後多くの保護者に参加してもらえるように、開催時間の変更など改善が必要なのではないか。

事務局 夜7時から開催したが、食物アレルギー対応委員会で、これから小学校に入学する保育園児、幼稚園児にも声をかけたらどうかという意見をいただいた。来年の開催方法については検討していく。

■ 学校給食巡回指導の実施について (P.3)

委員 上越市での食物アレルギー事故をうけて、各学校でどの程度、緊急時の対応訓練をしているかどうかの調査が必要との発表がされている。また、だれが主体的に取り組むのか、実際の事例を基にしてやるのかなどやり方も大事なことである。ぜひ、緊張感をもって取り組んでいただきたい。

事務局 各学校では養護教諭が中心となって研修やロールプレイを実施している。今後も引き続き、万々に備えた訓練を行う。

委員 部活の地域移行が進んできているが、外部の指導者へのアレルギー対応訓練や、アレルギー児童の情報などは共有されるのか。

事務局 大事な視点だと思う。指導者に研修が必要になってくる。対応について確認していく必要がある。

■ 喫食量調査及びアンケート調査について (P.4)

委員 センターから届く汁、ごはんが、子どもたちに配膳される頃になると冷めてしまっていることがある。喫食率を上げるためにも温かいものは温かく、冷たいものは冷たく食べたい。食缶の保温がきちんとできているのか。改善できれば子どもたちは喜ぶ。また、ごはんの量が日によって違い、足りない日もある。適切な量をお願いしたい。

栄養教諭 食缶が冷え切ってしまっている可能性があるなので、改善案として食器を温めて乾燥させる機械を活用して、食缶を温めてから提供するよう変更する。食器は、給食よりも早く学校へ届けているので、配膳室を温めるなどしていただきたい。配缶量は児童生徒数に応じて決められた量を量って提供しているが、配缶表を確認していきたい。

委員 配膳量について、アンケートで全部配膳しきれずに残食が多くなってしまったとあるが、均等に分ければ残らないし、均等に摂取率を上げられる。だが、配膳を行う子どもの感覚で差があるので、配膳目安を簡単に示すもの

があると良いと思う。それによってこの調査もより意味を持つのではないか。配膳量の指導はしているのか。

委員 体格や食の細さなど、子どもたちにはそれぞれの適量があるため、学校ではたくさん食べる子どもは多めに、食の細い子は少なめに配膳している。

委員 基本的には同じ分量での配膳を目指しているが、体格などによって加減をしながら行っているのが現状である。

■ 牛乳のストローレス化について (P.9)

委員 自校の教職員は、既にストローを使わずに牛乳を飲むことを実践している。飲み口を簡単に開けられる方法があり、中学生には取り入れたいと思っている。

委員 佐渡市内の小学校では、全校児童がストローを使っていない学校もある。低学年も慣れればできる。

委員 牛乳パックをストローレスに対応するために改良すると単価的にはどうか。

事務局 県が業者等を取りまとめる役割となっている。県内でストローレスに対応した牛乳パックを導入するとなった時に、価格が上がることはないのではと想定しているが、現段階で導入は決まっていない。

委員 新たな牛乳パックの導入となると、委託している牛乳製造業者の負担が大きくなるのではないか。紙ストローであれば早期に導入でき、プラスチック削減もできる。

委員 県の衛生サポーターの立場から、牛乳パックを衛生的に取り扱うこと第一条件として、飲み口のとっかかりを指で開けないというのがある。低学年はやってしまうだろうと思うと心配している。

委員 瓶はないのか。

事務局 県が取りまとめをしていて、市町村は毎年、瓶か紙パックを選ぶこととなっている。子どもたちが配膳室から教室まで運ぶ際に瓶は重く、割れる危険があるため、燕市は紙パックを要望している。地域によっては瓶のところもある。

委員 ストローを使わず、飲み口を開けて直接口にする時、パックの中身が見えにくいのでこぼしやすく、教室内が汚れる可能性が高い。乳アレルギーをもつ子どももいるので、それを踏まえて対応策をきちんと練って、難なくできることが必要かと思う。紙ストローやマイストローも検討してほしい。

■ 給食・食育だよりのペーパーレス化について (P.9)

委員 紙で配られると、給食の献立と家庭での献立が重ならないように確認す

ることができる。データで送られてきて、PDFを開いて確認するのは手間がかかるので、紙のほうが有難い。

委員 小学校と中学校に子どもがいると、それぞれの学校から給食だよりが届く。同じ内容を2枚もらうが必要ない。むしろ携帯電話で見られたほうが良い。

委員 現状として来年から始める方向なのか。

事務局 できれば進めていきたい。委員のみなさんの意見を踏まえて、校長会で各校の現状も確認しながら相談していきたい。

委員 学校のペーパーレス化についても徐々に進めているが、例えば、移行期間を設けて、給食だよりのデータでの配信と紙での配付の両方を行って、徐々に切り替えていくのはどうか。段階的に移行した方が無理なくできるのではないか。

委員 仮にペーパーレス化となった場合、どのような形で配信されるのか。

事務局 マチコミメールでの配信になるかと思う。

委員 マチコミメールは見直す時に不便を感じる。学校のホームページなどのほうが良いのではないか。

事務局 検討する。現在、燕市ホームページには掲載している。

■ 子どもたちの配膳時の服装について

委員 衛生管理マニュアルを見ると白衣を着用するとある。自校では割烹着のようなものを購入して使用しているが、中学校ではエプロンを使用している。夏場、長袖の割烹着を着ているため、児童は非常に暑がっていて、汗だくになっているので、かえって不衛生に感じる。また、割烹着はエプロンよりも値段が高い。エプロンも色付きのものもある。解釈としてどういうものを白衣とするのか。

事務局 いつも着ている服の汚れから給食を守るという観点では、手首まで袖のある白衣のほうが望ましいとは思いますが、学校の実情などを踏まえて、給食準備の時に準備をする格好になっているのであれば良いのではないかと捉えている。

■ 献立について

委員 冬場、給食で提供されるパンは冷たく、冷え冷えしている。パン、麺の提供回数が年間で決まっているのであれば、寒い真冬の時期はパンをなるべく減らして、温かいごはん、保温されてくるソフト麺を中心に献立を配慮してもらいたい。